

第 1 章

平成 20 年度 いんざい環境ニュース

平成 20 年度は、北総里山フェスタや手賀沼流域フォーラム、印旛沼わいわい会議など、さまざまな環境関連イベントが開催され、たくさんの皆さんにご参加いただきました。ここでは、その一部を紹介します。

1 里山での活動

北総里山フェスタ ～暮らしの中で、まもり、伝える命のにぎわい～

平成 21 年 1 月 25 日、東京電機大学千葉ニュータウンキャンパスにおいて、北総里山クラブ、林野庁、千葉県及び千葉の里山・森づくりプロジェクト推進会議の共催による「北総里山フェスタ」が開催され、来場者 580 名が北総地域に残る里山の未来について考えました。

同フェスタでは、北総里山クラブの代表を務める東邦大学長谷川教授が講演し、印西市の里山に生息する猛禽類の紹介を通して、生物多様性における里山の重要性を指摘しました。他に、「里山に魅せられて」と題した写真家の今森光彦氏とケビン・ショート氏による対談などが行われ、イベントの最後には、将来にわたる里山環境の保全を目指す“北総里山宣言”が発表されました。



長谷川教授の講演



今森氏とショート氏による対談

～ 北総里山宣言 ～

私たちは、農耕文化の長い歴史と経験から生まれ、受け継がれてきた生き物豊かな自然環境の大切さを知っています

私たちは、食と命を支える、田園を保ち、管理するしゅみを未来に受け継いでいきます

私たちは、田園の中に都市を共生させる新しい里山自然を実現し、世界に誇れる北総の里山を育てていきます

イベントを主催した北総里山クラブは、北総の里山を守り、自然と人間が共生する 21 世紀型のまちづくりを推進する市民団体の連合組織です。北総地域の環境保護について市民の声を集め、千葉県への提言を行う「北総タウンミーティング」や、市民参加で谷田・武西地区の里山の保全手法を提案していく「北総里山会議」などの活動も行っており、市民の手による里山環境の保全を推進しています。

結縁寺地区の谷津がにほんの里 100 選に選ばれました

朝日新聞社と森林文化協会が主催する「にほんの里 100 選」に、印西市の『結縁寺地区の谷津』が選定されました。

「にほんの里 100 選」とは、人々の暮らしによって育まれてきたすこやかで美しい里を、景観、生物多様性、人の営みの3つの要素から評価し、選定したもので、全国から応募された4,474ヶ所から100ヶ所が選ばれました。



結縁寺地区の谷津

『結縁寺地区の谷津』は、千葉ニュータウンのすぐ近くにある76ヘクタールの谷津地域で、首都圏近郊に残る谷津として、田や畦、斜面林の他、ため池などの水辺環境が健在で、鎮守の森も残る良好な里山環境が選定理由となりました。

里山ってどんなところ？

近年、生物多様性保全や持続可能な社会実現の観点から「里山」の環境が注目されています。

「里山」は、樹林や田畑、川沼、草地、そして人家を含む農村環境全体を指し、そこでは長い歴史をかけて人と自然がかかわりあう中で、日本を代表する豊かな生態系が形作られてきました。

里山を構成する多様な環境に適応した多くの動植物が生育・生息し、私たち人間にとっても、資源生産や環境学習の場として重要な機能を有しています。

コラム 「里山観察会」

印西市教育センターでは自然科学体験学習の一環として、草深地区で年4回の里山観察会を行っています。親子を対象に自然観察やネイチャークラフトなどを実施し、親子の絆を深め、学習する事の楽しさを体験してもらうことを目的としています。

参考：印西市教育センターホームページ
<http://inzai.ed.jp/center/natural/>



2

手賀沼流域フォーラムイベント

平成 20 年 8 月 30 日、印西市文化ホールにおいて、第 12 回手賀沼流域フォーラムに関連する印西地域イベントとして、地球温暖化を問いかけるドキュメンタリー映画『北極のナヌー』上映会が開催されました。主体となった「北総エコの木の家」は、昨年 8 月開催の『不都合な真実』印西市上映会をきっかけに集まった、さまざまな分野で活動している市民団体のネットワークです。



多くの皆さんにご参加いただきました

夏休み最後の土曜日となった当日は、大勢の子どもたちが印西市文化ホールに集まり、上映にはホールいっぱいの 520 人が参加しました。

その後、北総地域や手賀沼の自然を紹介する発表が行われ、イベントの最後には、参加者が地球環境を守るために実践したいと思った行動などを葉形のカードに記入して「私たちが育てるエコの木」に貼り付け、一人一人が地球にやさしい暮らしについて考えました。



エコの木

コラム 「北極のナヌー」

あなたは知っていますか？今から約 30 年後には、ホッキョクグマがいなくなってしまうことを。

「北極のナヌー」は 2007 年に公開されたドキュメンタリー映画です。地球温暖化により急激に氷が融け始めた北極。そこで生まれたホッキョクグマ“ナヌー”の姿を通し、北極の動物たちに起きている厳しい現実を見つめ、私たちに地球温暖化を問いかける作品です。温暖化について考える全国の様々なイベントで上映されています。

第12回手賀沼流域フォーラム イベント

北極のナヌー

— ナレーション：藤垣吾郎 —

昨年の『不都合な真実』に続く、地球温暖化を問いかけるドキュメンタリー映画の無料上映会です。

あなたは知っていますか？
今から約 30 年後には、ホッキョクグマがいなくなってしまうことを……

無料上映

印西市文化ホール

8月30日(土) 14:00～16:00(開場13:30)

申し込み / 佐藤はるの館に住所・氏名・電話番号・団体名を明記の上、下記へお申し込み(印刷用紙までお送りください)
宛先 〒270-1326 印西市外倉 2646-12 市民活動支援センター西
『北極のナヌー』(映画館多数の都合次第)

定 額 / 4,800円、中学生以上
問い合わせ / 印西市市民活動課 ☎0476-42-0111
主 導 / 北極のナヌーの会・手賀沼流域フォーラム実行委員会・手賀沼水環境保全協議会
後 援 / 印西市教育委員会・印西市教育委員会

3 印旛沼わいわい会議 in いんざい

平成20年11月16日に、印西市文化ホールにおいて、「印旛沼わいわい会議 in いんざい」が開催されました。

印旛沼わいわい会議は印旛沼流域水循環健全化会議 が主催し、今回で5年目を迎え、準備段階から地元の市民活動団体が多数関わっての開催となりました。

会議には約150名が参加し、「印ざい発 印ば沼を考える！」をメインテーマに、4つの分科会と全体討論が開催されました。分科会では印旛沼の再生に向けた取り組み事例の紹介や活発な意見交換が行われ、全体討論では各分科会の報告や参加者の意見をもとに、印西会場からの提言をまとめました。

《印西会場からの提言》

- ・ 個人及び小集水域 単位での環境保全が、沼の水質改善にどのように貢献するのか、可視化するシステム作り
- ・ 遊休農地 対策チーム設置とチームによる取り組み支援を
- ・ 正しい情報で一人一人の意識変革をめざそう

また、平成20年11月9日に、わいわい会議のイベントとして「プチわいわい会議 in さとやま」が開催され、水源を守る活動の一環として、神崎川水系での水質調査などが行われました。



会議の様子



イベント「プチわいわい会議 in さとやま」

コラム 「印旛沼の水質」

印旛沼の水質は、平成19年度に全国の湖沼でワースト1位になっています。

印旛沼の水質浄化へ向け、流域の市民や事業者、行政が一体となり、本気での取り組みを行っていくことが求められています。

平成19年度 全国湖沼のCOD濃度ワースト5

順位	湖沼名	COD濃度 年間平均値
1	印旛沼 (千葉県)	11 mg/L
2	北浦 (茨城県)	9.5 mg/L
3	佐鳴湖 (静岡県)	9.3 mg/L
4	常陸利根川 (茨城県)	8.8 mg/L
5	春採湖 (北海道)	8.7 mg/L

出典：環境省

4

市庁舎への太陽光発電パネルの設置

市では、平成 20 年度から 3 カ年計画で庁舎の耐震補強、改修工事を実施していますが、これに合わせ、屋上に太陽光発電パネルを設置しました。発電開始は平成 22 年度の予定です。

設置した太陽光発電パネルの出力は 10kW で、市庁舎 1 階フロアの半分の照明分をまかなうことができます。

また、今後は市民のみなさんが見ることができる位置に発電状況を確認できるモニターを設置する予定です。



庁舎屋上に設置した太陽光発電パネル

コラム 自治体における太陽光発電の導入状況

太陽光発電は、太陽光を直接電力に変換し、発電時に二酸化炭素を発生しないため、地球温暖化防止対策として地方自治体の市庁舎に太陽光発電を導入する取組みが全国的に推進されています。

太陽光発電の長所

- ・無尽蔵のエネルギー源
- ・発電時に CO₂ を排出しない
- ・維持管理が容易で保守費用が安価
- ・電気消費地で発電可能

太陽光発電の短所

- ・出力は天候次第
- ・夜間は発電できない
- ・エネルギー密度が低く、大電力を得るには広い面積が必要

千葉県の自治体における導入事例(抜粋)

設置箇所	発電開始年度	発電規模 [kW]
印西市 大森小学校	H15	10
我孫子市 第三小学校	H15	10
佐倉市 白銀小学校	H15	10
千葉市 小中学校	H15	140
白井市 小中学校	H15	90
和田町 和田中学校	H15	10
館山市 第二中学校	H16	10
浦安市 小中学校	H17	30

出典:

独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構
「地域新エネルギー導入促進事業」実績